

平成27年度 第2回総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成27年10月30日(金) 午後2時00分
- 2 場 所 役場3階中会議室
- 3 出席者 当別町
宮司町長
当別町教育委員会
白井委員長、武岡委員、寺田委員、小林委員、本庄教育長
- 4 説明員等 当別町
企画部長 二木 勝 義
企画課長 長谷川 道 廣
総合企画係長 小畑 孝 尚
福祉部長 五十嵐 一 夫
子育て推進課長 森 淳 一
当別町教育委員会
教育部長 野村 雅 史
管理課長 山崎 一
社会教育課長 小出 真 二
管理課主幹 村上 賢 二
管理課主幹 水谷 純
- 5 傍聴者 なし

6 議事の要旨

(開会)

企画部長： 定刻となりましたので、平成27年度第2回当別町総合教育会議を開催いたします。

なお、本日の会議につきましては、町長が午後3時30分より次の公務が入っておりますので、概ね1時間を目途に閉じさせていただきたいと思っておりますので、御協力を宜しくお願いいたします。

それでは開催に当たり、宮司町長よりご挨拶をいただきます。

(町長挨拶)

宮司町長： 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今日は大綱の作成に向けての基本的な枠組みを協議させていただきたいと思っております。

この間、西川信廣先生のお話を聞くことができました。大変示唆に富んだお話で、企画をして下さいました教育委員会の皆様にお礼を申し上げます。

公演ではとても多くを学びました。特に、先生が仰られていた縦の糸、横の糸とかですね。縦の糸が幼保小中高で繋がっており、横の糸が学校・家庭・地域、そのスクラムという点においてコミュニティースクールがあるというお話でした。大変心に響きました。また、面の平等、階級社会の再生産にならないようにと教育に難しさがあるのだということを感じました。

しかし、私の意見と先生の意見が少し異なる点は、競争社会から協力社会というお話をされておりました。これは教育者としての言葉で、私のようにビジネスで育った人間とは違うのだと思いますけれども、私の個人的な意見は、京都型の地域での協調・協力社会、東京品川区の日野学園でやっておりますエリートを育てる社会、教育。私はどちらかという、日野学園的なことを進めることが、日本が今の世界に向ける状況の中では必要なのかなと思います。

この辺りはおそらく、立場の違いだと思います。

その中で、品川区の若槻元教育長の話が出ましたけれども、実は私、若槻さんとは、以前何度も学校を訪れて話をしました。公立の小中一貫校を初めて取り入れ、文科省のあり方にどちらかという異議を申し立てた方なんですけれども、当別町でも実施しておりますマナーキッズプロジェクトを品川区の三十数校の学校に100万円の予算をつけて、大々的に初めて取り入れた方でもあるのです。

そのときのお話が今でも私の心に残っているんですけれども、なぜ彼らがそれを取り入れたかという、今のマナーの悪さの根本原因は、戦後一貫して取り進めてきたわが国の教育方針に根ざすものであると彼は言い切っています。

教育というものは、彼が言うことには、他律による自律への促しということでした。

教育は、他律による自律への促しという原理があり、最終的に自律を目指す、今の教員は、その他律そのものにアレルギーを起こしている。そして、子どもの意欲を大切にしようとか、子どもの発想を大事にしようとか、子どもの目線に立って考えよう、ということを行う。そのことは否定はできないが、忘れていることは、それに付随している具体的な戦略、方法、方策、手段だとかがないのが実態である。だから、なかなかうまくいかないのだ。その結果、子どもたちの公共心の低下、礼儀作法の低下に繋がってしまっている。

マナーキッズという事業でやっているのは、テニスを材料にしてマナーを教えるということ。これはまさに他人が律することを教えたのであります。まさに他力で具体的な行動を通じて子どもたちにマナーや礼儀を自然な形で伝えていく。こういったことを基本にお

かなければ、いくら尊く、気高く、美しく、教室で子どもたちにマナーを教えても頭の中に入っていないのです。ですから、そんなものは何のリアリティーもないと彼は言い切っていました。

申し上げたいことは、あらゆる観点で教育というものはどういうものであるかということを実際に取り上げられなければならないと思います。彼はエリートを育てるという目標を出しているが、それは偏差値ではないと言っています。子どもたちの総合力をどうやって上げるかということに焦点を当てている方でありました。

私は、彼といろいろな話しをした中で、そんなことを考えておりましたので、少し御披露させていただきます。

これから大綱を協議いただきますけれど、いずれにしても教育の大事さというものは、町の将来の成否を担っているわけですから、ぜひ皆様とさらに連携を密に取りながら、教育行政を進めたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

企画部長： ありがとうございます。

(教育委員長あいさつ)

企画部長： 続きまして、白井教育委員長様よりご挨拶を頂戴いたします。

白井委員長： 中国の30数年間続いた一人っ子政策を大転換することとなりました。社会はまさに創造も情勢も環境も価値観も著しく変化をする中で、ここ当別町の明日を創る人、担う人、支える人をどう育成するというのが、一朝一夕ではできないだけに教育を大きな課題であろうかと思えます。

基本となる目指す姿であるとか、施策の根本的な方針の枠を定めるのがこの大綱であると思えますので、今日お示しの大綱の案につきましてご協議をいただくようお願いしまして、簡単ですけども挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

企画部長： ありがとうございます。 それではこれより議事に入ります。 進行につきましては宮司町長の取り進めによりお願いいたします。

【(1) 教育に関する大綱の策定について】

宮司町長： それでは、教育の関する大綱の策定について、まず事務局から説明をお願いいたします。

管理課長： （資料1により説明）

宮司町長： ただ今の説明につきまして、質疑等がありましたら宜しく願いいたします。

本庄教育長： 大綱を今つくることの意味付けですが、教育に関する施策については、例えば第4次生涯学習推進計画であるとか、今年度の教育行政執行方針であるとかを基に現在進行形で進んでいるものですから、今ある計画を踏襲したような形で大綱を策定し、計画期間が切れるときに、また新たな見直しをするということで、いければいいと考えます。

例えば、1ページの3番に関連計画として載せておりますけれども、こういったものも関連付けながら大綱を進めていくことが必要かなと考えておりますので、確認していきたいと思えます。

宮司町長： 今進めている計画でここに入っていないものはありますか。

本庄教育長： 大きなものはすべて網羅されていると思えます。

宮司町長： 大綱に外れたことをやり続けるわけにはいかないもので、何らかの形でどこかに入っていけばよろしいのではないかと思っております。

この大綱については、質疑がございませんでしたら、「当別町教育大綱（案）」のとおりということによろしいですか。

（異議なしの声）

宮司町長 それでは、大綱はこれで決定ということになりました。

（閉会）

宮司町長： これで第2回当別町教育総合会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

閉会 午後2時18分